

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

マルホ皮膚科セミナー

2018年7月19日放送

「第69回日本皮膚科学会西部支部学術大会 ①

大会を終えて」

熊本大学大学院 皮膚病態治療再建学分野
教授 尹 浩信

テーマは「熊本と皮膚科学を楽しもう」

まず最初に、平成28年の熊本大地震の際には日本中の皮膚科の先生方から温かいご支援、ご厚意、励ましを頂きましたことを心から感謝申し上げます。地震で教室・研究室は完全に破壊され、教室員の中にも住居を失った方もいますが、幸い教室員もその家族も全員無事であり不幸中の幸いであったと感じております。復興に向け皆力を合わせて一步一步前に進んでおります。

そのような中、平成29年10月28日、29日の両日、くまもと県民交流館パレアおよび熊本市国際交流会館にて第69回日本皮膚科学会西部支部学術大会を開催致しました。

日本皮膚科学会西部支部会員のみならず、全国各地より皮膚科医ならびに皮膚科に関連された皆様をお迎えできたことを心から大変喜ばしく思いました。台風が九州地方を反れながら日



本に近づいてきたため、学会開催中は時折雨が降り、また風が強く吹きましたが、なんとか学会を終えることができましたし、参加者の皆様は無事にご帰宅されたと同っております。

悪天候にもかかわらず、被災した熊本の復興のためにと予想をはるかに上回る 1,146 名もの参加者があったことは驚きであるとともに、本来会場として予定しておりました熊本市民会館は地震により天井が崩落して使用出来なくなったため、急遽少し離れた会場、くまもと県民交流館パレアおよび熊本市国際交流会館を使用することになりご不便をかけ申し訳なく感じております。悪天候であったため非常に不便であったと思っておりますが、多くの参加者は路面電車一日乗車券を使用して会場間を移動され、中には「珍しくて懐かしい」と声をかけてくれる方もいらっしゃって少しほっと致しました。

今回の学術大会のテーマは「熊本と皮膚科学を楽しもう」でした。地震で大きく傷つきましたが、熊本には熊本城、水前寺公園、有名な歓楽街、阿蘇、天草、菊池、玉名、人吉、山鹿、黒川、小国があり、観光には事欠きませんし、熊本の人々の hospitality は他県の比ではありません。参加者の多くは足を延ばして熊本観光を楽しみ、また多くの方が熊本の食、焼酎などのお酒を楽しまれたと同っておりますし、ふだんより熊本の夜の街がにぎわっていたと同っております。

特別講演

特別講演には熊本大学が世界に誇る満屋裕明特別招聘教授、山村研一シニア教授を御招きしました。満屋裕明特別招聘教授からは「臨床と研究のはざまで—HIV 感染症と AIDS 治療薬開発の経験から」と題するご講演があり、満屋先生がお若い時の米国 NIH での御研究から現在に至るまで、世界初の AIDS 治療薬 AZT の開発から次々と新規薬剤を開発してきたお話をして頂きました。死の病である AIDS を研究すると死ぬかもしれないと言われた時代に、薬剤開発の経験も全くない先生がただ情熱だけで想像に絶する苦難を乗り越え、世界初の AIDS 治療薬 AZT を開発する話は、まるで映画のような話で非常に深い感銘を受けました。山村研一シニア教授からは「マウスを用いたヒト疾患遺伝学の展開」と題するご講演があり、多くの皮膚科医を含む若手研究者とともにトランスジェニックマウス、ヒト化マウスを世界に先駆けて作成し、さらにはその技術で多くの疾患のモデルマウスを作成してヒトの疾患を研究する話は若手皮膚科医に印象深かったのではと思います。

招待講演

招待講演には強皮症研究で有名な Maria Trojanowska 教授、悪性黒色腫研究で有名な Alain Mauviel 先生にご講演頂きました。Trojanowska 教授からは「Molecular mechanisms of microangiopathy in systemic sclerosis」という題でご講演頂きました。近年 Trojanowska 教授の研究室が展開している、全身性強皮症の血管病変の病態解

明と本疾患の病因への関与およびこれらの知見からの translational research についてお話し頂きました。現在私が厚生労働省強皮症・皮膚線維化疾患研究班の研究代表者を務めている関係から非常に得るものが多く、大いに刺激を受けました。また、Mauviel 先生からは「TGFβ-Driven Non-Canonical Hedgehog Signaling in Cancer - Implication for Melanoma」という題でご講演頂きました。悪性黒色腫ではあまり注目されていない、TGFβ signaling と Hedgehog Signaling の悪性黒色腫の病態への強い関与について示して頂きました。熊本大学の我々の教室は歴史的に悪性黒色腫に関する研究・診療の拠点であり、熊本で開催する学会にふさわしいご講演でした。

国際交流講演には台湾 Tzu Chi University の医学部長 Jen-Hung Yang 教授を御招きし、「Alpha-hydroxy Acids and the Skin: Friend or Foe?」という題で、Alpha-hydroxy Acids の皮膚に対する作用、特に美容皮膚科、あるいは皮膚老化に関するお話で、我々があまり見聞きしない新鮮なお話でした。若い皮膚科医は美容皮膚科にも大いに興味を持っており、若手皮膚科医にも大変興味深いご講演だったと考えます。

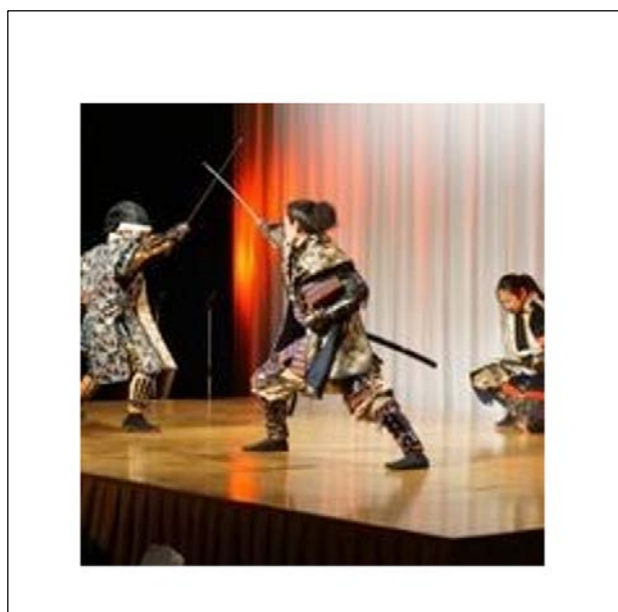
シンポジウム

シンポジウムのテーマとしまして、私の専門でもあり、教室の主なテーマでもある、膠原病、皮膚悪性腫瘍、悪性黒色腫、創傷治癒について西部支部の先生方に議論して頂きました。この領域は境界領域であるとともに、皮膚科の入院患者さんはほとんどこれらの疾患を有し、皮膚科において最も重要な疾患群であるためか聴衆が非常に多く、一番広い会場にてシンポジウムを行いました。いずれも満員で立ち見が出ていました。今回はアナライザーを用いて意見交換しており、大いに盛り上がりました。

懇親会

懇親会は熊本ホテルキャッスルの最も大きな宴会場を使用して開催致しましたが、出席者が多く、会場に入りきらず溢れんばかりの盛況でした。懇親会にはくまモン、戦国武将隊、弦楽アンサンブルにご出演頂きました。やはり、くまモンは非常に人気があり、皆様一緒に写真を撮っていたようですが、時間の関係で全員が一緒に写真を撮ることはできなかったようであり、次回以降学会を開催する際にはもう少し撮影時間に余裕を持つべきであると痛感しました。

さらには当初は皆様を驚かせるために秘密にしておりましたが、スマートフォンのCMに出演しています、美人ヴァイオリニスト「Ayasa」さんに演奏し



て頂きました。参加者からはビジュアル面のみならず、音楽も素晴らしいとのご意見を頂きました。

また懇親会には熊本の米焼酎、日本酒は当然ながらジュヴイレ・シャンベルタン、ヴォーヌ・ロマネ、シャブリ プルミエ・クリュなどの私好みのブルゴーニュワインを提供致しました。出席された皆様に喜んで頂き非常に嬉しく感じております。

最後に本学会開催に尽力頂いた、事務局長福島 聡先生、日本皮膚科学会山田紀子様、熊本大学皮膚科・形成再建科教室の皆様、遠方からご出席して下さいました出席者の皆様に深謝致します。

